

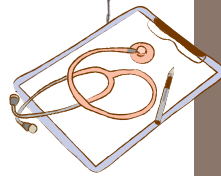
病気を知って  
早めの受診が  
大切です

# 健康 百科

普段から健康に気を使っている、わずかな体調の変化は見逃しがちです。そんな時、病気の知識があれば早めに対応できそうですね。このコーナーでは、いつでも起こりうる、生活に身近な病気の症状と対策についてご紹介していきます。

今月の「気をつけたい病気」

## 非結核性抗酸菌症



どんな病気？

咳が長く続き  
進行すると血痰が  
出るのが特徴。  
最近、中高年女性に  
多い病気です。

非結核性抗酸菌症は結核菌以外の抗酸菌による感染症で、細胞内に寄生して感染を起こします。抗酸菌とは結核菌やライ菌など細菌グループの総称です。結核と異なり人から人に感染することはありません。



【監修】  
川崎医科大学附属病院  
呼吸器内科 小橋 吉博 准教授  
倉敷市松島577  
TEL:086-462-1111(代表)

近年、健康診断などで発見されるが増えている「非結核性抗酸菌症」。風邪の多いこの季節、咳や微熱など間違えやすい症状があるので、ぜひ気にかけておきたい病気です。

症状のあらわれ方は？

自覚症状のない場合が多く、長く続く咳や痰が出るなど風邪のような症状に

非結核性抗酸菌症は、はじめのうちはほとんど自覚症状がないことが多く、進行してくると咳や痰、微熱などがあら

われます。結核のように人から人に感染することはありませんが、原因菌は土や水など身近に存在するため、予防が難しい病気です。また、体質的に菌に感染しやすい人がいて、とくに中高年の女性に多い傾向があります。菌自体の病原性は弱く、進行が遅いのもこの病気の特徴。自覚症状がないことから受診をしないケースが多いのですが、油断は禁物です。重くなると血痰や咯血があり、数カ月から数年の長期にわたって慢性的な状態が続きます。

どんな治療になる？

長期間の投薬など  
医師との連携が不可欠

胸部エックス線や胸部CTなどの検査で肺に異常な影(空洞)が見つければ、菌の種類を特定し、抗結核薬などによる治療を始めます。投薬は医師と相談しながら1年から2年かけて行い、投薬終了後も定期的な検査が欠かせません。再燃することも多く、長期にわたる治療を必要とする場合もあることから、なるべく早期に見ることが大切になります。

## 早期発見方法はコレ

- ✓ 定期的な健康診断を受ける
- ✓ 2ヵ月以上咳が続いたら要注意
- ✓ 痰に血が混じったらすぐ受診

感染しても自覚症状のない人が多く、健康診断で発見されることが増えている病気です。定期的な健康診断を受けることが早期発見につながるため、欠かさずを受けることをおすすめします。また軽い咳でも2ヵ月以上長引く時は、放置せずに受診することが大切です。症状が軽いうちに受診して、正しい診断をもらったあとは、定期的な経過観察により、進行する前に適切な処置をとることで重症化を防ぐことができます。

注目ポイント!

中高年の女性に増加中

結核と違い、人から人に感染しない

ゆっくり進行、じっくり治療を